

2020年9月実績概要(メモ)

(2020.10.22)

秋の定修入りに伴い、減産となる品目が多い中、疎らながらの増産品目もあり。

1. 生産動向

イ) エチレン 487,700トン

前月比 ▲10.3% (▲56,100トン)
前年同月比 ▲8.5% (▲45,500トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲3.2%	-
定修要因等	▲8.1%	▲8.3%
能力増減	-	+0.1%
稼働率変動	+1.0%	▲0.3%
生産増減率	▲10.3%	▲8.5%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月91.8% → 当月92.8% ← 前年同月93.2%
定修プラント：前月なし → 当月1社1プラント ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減に合わせて、定修規模の拡大や稼働率要因から LDPE、HDPE、PP、PS、SM、塩ビモノマー、MMA モノマー、AN、ベンゼン、キシレンなどの13品目がマイナス。EO、EG、BR などの4品目のみがプラスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差などから、HDPE、PS、SM、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの12品目がマイナス。LDPE、塩ビモノマー、EO、EG などの5品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況 (LDPE、HDPE、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数減に加えて LDPE、PP、PS は定修規模の増加から、HDPE は稼働率要因から、それぞれマイナスとなった。

前年比では、LDPE は主に稼働率要因からプラスとなった。HDPE は稼働率要因、PS は定修規模差などからマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、夏季休暇があった前月に対し、当月はユーザー側の稼働日数の増加もあり、いずれも二桁台の大幅な伸びとなった。

前年比では、コロナ禍のもと、これまで前年割れの状態が続いてきたが、当月は、LDPE が前年並み、PP、PS はプラスとなった。

分野毎の出荷状況では、LDPE ではフィルム分野の出荷減少幅の縮小が見られたほか、HDPE では中空成形分野での増加が見られている。また、PP は、射出成形分野の出荷が前年を僅かに上回ったほか、フィルム分野、押出成形分野などの出荷が増加した。PS は FS 向けの出荷増加を筆頭に包装分野、雑貨・産業分野とも増加しプラスとなった。

ハ) 輸出

ポリオレフィンの輸出は徐々に増加基調となりつつあり、前月に輸出量が多かった LDPE はマイナスとなったが、HDPE、PP はプラスとなった。

前年比では、前年の出荷がやや国内出荷よりの傾向にあったこともあり、ポリオレフィン3樹脂はプラスとなった。PS は当月の出荷が国内向けへと偏重し、前月比、前年比ともにマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PP、PS の4樹脂で減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対して LDPE、HDPE、PP、PS のいずれも低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PS ともほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		8月末	9月末
LDPE	▲13,100	3.3	3.2
HDPE	▲4,200	3.2	3.0
P P	▲12,900	2.9	2.7
P S	▲13,200	2.1	1.6